

歯科衛生士のみなさんは患者さんと接する機会が最も多く、患者さんの口腔内や全身の健康状態、生活背景などを日々観察していることと思います。そのため、歯科衛生士は患者さんのちょっとした変化に気づくことができる立場にあります。そうした変化を、歯科医師に伝える、あるいは患者さんに問いかけることも、歯科衛生士の大切な役割の一つです。

こうした役割を果たすためには、患者さんの口腔内で起こるさまざまな病変や異常に“気づく目”、あるいは“見分ける目”が必要となります。歯肉や歯周組織、舌・口腔粘膜、または歯に現れる病変・異常に加えて、ライフステージや全身疾患を考慮すべき病変・異常など、これらの知識をわかりやすく整理し、臨床の場でお役立ていただけるガイドブックとして、本誌を企画いたしました。

各分野で専門的にご活躍されている先生方が呈示する数多くの症例に触れることで、みなさんに観察眼が養われるはずです。また、発見された病変・異常に対してどのような対応が必要なのか、そのつど本誌を振り返ることで大いに学ぶことができると思います。

本誌がより細やかな観察眼を身につけるための一助となれば幸いです。